

# 茶室覚書

武者小路千家一世 一翁宗守 京都裏千家  
1667 一畳台目 かんぎゅうあん

# 官休庵

外観：入母屋造りの瓦葺き屋根、妻を南面 前面に土間庇を  
付け下ろし躍り口を開ける 軒回りは柿葺き  
点前座：一畳台目に5.1寸の半板を入れ、道具を置く場を確保し  
主客の緩衝領域（ゆとり）をつくる  
風炉先の壁が半板分広いので、風炉先窓がゆったり見える  
床：塗廻し壁の台目床 床柱は栗なぐり 花入れ釘高さ3.63尺  
天井：一面に蒲天井を張り、板畳の上のみ化粧屋根裏  
茶道口：板畳の脇の火灯口 亭主の出入りにゆとりがある

- ・武者小路千家を代表する茶室
- ・宗旦の次男一翁宗守いちおうそうじゆが高松藩への仕官を辞し、  
隠居所として建てる 現在は大正15年に改築
- ・半板／茶道口の板畳は極小空間のゆとりをあたえ、水屋洞庫  
は亭主の働きを減らすことを考慮した茶室
- ・編笠門が茶室への中門で、独特な雰囲気を作る

